

令和4年度「労働災害防止会議」の開催

岩手南部森林管理署遠野支署では、国有林野事業での労働災害防止のため、毎年この時期に「労働災害防止会議」を開催し請負事業体に対して安全指導を実施しています。今年は10月26日に釜石労働基準監督署の千田成人署長を講師に招き、市の担当職員及び請負事業体など計28名の参加で開催しました。

今年度の東北森林管理局管内における請負事業体の労働災害は、会議開催日時点で13件と、前年度同時期の18件を下回る件数で推移している状況であり、発生した災害を要因別で見ると、周囲の状況の確認不足に起因する災害が大半を占め、特に歩行による移動時の災害が13件中3件と多い傾向が見られました。

釜石労働基準監督署の千田成人署長からは、「労働災害防止対策について」と題しご講義いただきました。

講義の中で特に印象に残ったのは、林業における死亡災害の最多の原因である「かかり木」を起こした際に、作業者はこういった心理状態で不安全行動を起こしてしまうのかを調査したアンケート内容でした。

【アンケート調査の結果】

- ① 今まで、ほとんど元玉切り、浴びせ倒しでうまくいっている(良くない経験論)
- ② 他人に頼ることが恥ずかしい(プライド)
 かかり木したことを隠したい 他人に協力を求めたくない
 馬鹿にされたくない 迷惑を掛けたくない
- ③ 面倒である
 道具を取りに行くのが面倒 そもそも道具をもっていない
 割り当ての作業が多い(急ぎ作業) 今日の仕事がもう少しで終わる
- ④ 黙認
 危ない行為を注意しない・されない 見て見ぬふり
- ⑤ 会社からのプレッシャー、評価
 一人前と思われたい 生産量を上げたい
- ⑥ 適切なかかり木処理の方法について、よく知らない、熟知していない

アンケートの内容を確認すると、普段から作業者間のコミュニケーションが図られていれば違う結果につながったのではないかという回答が多く見られ、労働災害の防止には作業者一人ひとりの安全意識の向上も大事ですが、それ以外にも**「人と人とのコミュニケーション」が重要である**と改めて認識しました。

自分のため、家族のため、一緒に働く仲間のため、安全第一の作業をお願いします。



(総括森林整備官 工藤)